

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

研究開発型ベンチャー支援事業

2022 年度第 1 回 高度専門支援人材育成プログラム

– NEDO Technology Startup Supporters Academy –

(通称：SSA)

受講者募集要領

募集・応募申請書提出期間：

2022 年 3 月 11 日（金）～3 月 31 日（木）17 時まで

（要必着）

高度専門支援人材育成プログラム

NEDO Technology Startup Supporters Academy（通称：SSA）について

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」という。）は、「研究開発型ベンチャー支援事業」において、NEDO Technology Startup Supporters Academy 高度専門支援人材育成プログラム（通称：SSA）を実施いたします。この育成プログラムの受講を希望される方は、本募集要領に従い御応募ください。なお、本事業のスケジュールや講義内容等、実施内容の一部が変更される場合があります。

I. 件名

高度専門支援人材育成プログラム「NEDO Technology Startup Supporters Academy」（通称:SSA）

II. 事業概要

1. 背景・目的

研究開発型ベンチャー、スタートアップ（以下 SU）は、イノベーションや産業競争力向上の担い手であり、研究開発の成果や知的財産権の社会実装の手段として、研究開発シーズの事業化、SU 化を廻る動きは、益々活発化しています。こうした研究開発成果の事業化、中でもイノベティブな SU の創出や育成支援には、先進的なテクノロジーの価値の目利きや創造性の発揮に加え、開発に係る膨大な資金や時間が必要といった、高度かつ特有な課題が立ちはだかります。何より、研究開発型 SU はイノベーションの担い手であることから、その支援者もまたイノベーションに関する理解や知見が求められます。

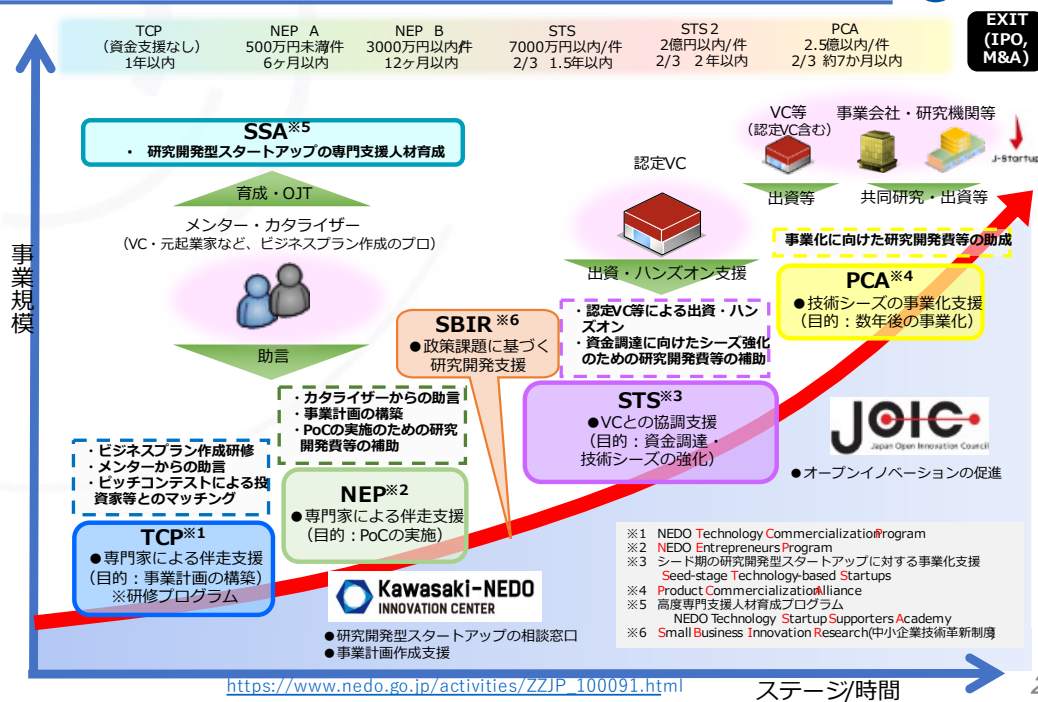
しかしながら、上記のような先端技術・ディープテック系 SU 支援の素養を備え、起業家とともに泥臭く「伴走」しながら、能動的に対策を講じるといった、支援的知見を有する現場（内部）の中核人材はまだ足りていないのが現状です。

特に今後は、コロナ禍がもたらした影響が、今後の不透明ながら新たな社会ニーズを創出して市場の変容を促し、これに対応した SU の支援の素養やマインドセットも、そのキャリアのあり方も含め、旧態とした制度や所属の考え方を越えたトランスフォーマティブな思考軸が求められます。イノベーションの創出をめぐる国際競争環境の激化から、研究開発の社会実装を目指す現場では、これを適切に牽引出来る支援者の質やパフォーマンスが事業化の成功にとって重要となってきています。

このような背景からは、研究開発型 SU の起業家・経営者だけでなくその事業化現場における高度専門支援人材の人材層もまた、日本のイノベーション創出を担うエコシステム、ソフトインフラとして、質を高め、層を厚くしていくことが望まれます。この点、NEDO では、日本のベンチャーエコシステムを下支えするための公益的視点と、広い知見や高い専門性を持って研究開発型ベンチャーの成長を伴走支援できる人材の育成を目指した、高度専門支援人材育成プログラム「SSA(NEDO Technology Startup Supporters Academy)」を、2017 年度から実施してきました。この度、SSA プログラムの 2022 年度受講者の募集を開始します。

※ 参考

NEDO研究開発型スタートアップ支援事業の全体像



2. 目指す支援人材（像）について

NEDO SSA では、下記の方角性を踏まえ、研究開発型スタートアップ支援の体系的・最大公約数的な知識やスキルの習得をめざし、全体最適の観点から、バランスの取れた高度専門支援人材の育成を目指します。

育成の方角性

1. マインドセットの育成・強化：

⇒時間と労力の天秤でなく、**当事者意識を発揮**して、泥臭く伴走支援できる、高い使命感と意識を養成する。

2. イノベーションやスタートアップ・エコシステムに関する知見・知識：

⇒研究開発型スタートアップはイノベーションの担い手である。支援者もまたイノベーションの創出支援者として、そうした困難な取り組みや挑戦に向けた必要な基礎的知見の修得を目指す。

また、スタートアップ支援のエコシステムの一員として必要な考え方を養成し、横串化のネットワーク構築を目指す。

3. スタートアップ支援のスキル・方法論の育成

⇒研究開発型SU支援に必要な、各種の支援的知見やスキルの基礎を育成する。

また、関係政策・施策への理解と、各施策をSU支援のツールとして使いこなすための知見や運用能力（キュレーション能力、申請書指導ほか）を育成する。

もともと、研究開発型 SU に必要な支援は広範で、各種の局面で提供すべき知見やスキルは様々です。

またその各専門領域もまた深いものがあります。当プログラムは、これらの『網羅的』な知見・スキルの提供や既存の各領域の深掘りによる部分最適な支援を目指すものではありませんのでご注意ください。

<目指す育成人材の例>

- 研究シーズの掘り起し・案件化から事業化までを「全体的」に俯瞰でき、ファーストオピニオンとして、適切な初動支援策を繰り出し、必要時には各種の外部専門家へと繋げることの出来る人材
- イノベーション創出に向け、時として、**“起業家や地域”と、泥臭く伴走することを厭わない公益的視点**や現場マインドを有した支援人材
- オープンイノベーションやベンチャーエコシステム構築の視点から、自己の組織的所属に留まらず、アイデアやネットワークを駆使し、自ら仮説提起や検証を実施しながらベンチャー創出環境のデザインやプロデュース、現場課題の改善を行うマインドを持った、**主体的・能動的支援人材**
- インセンティブと労力との天秤で支援を割り切ることなく、**自身の目利きや信念を信じて支援を行い**、その成功に向け、**案件の可能性を、大きく引き出す**ことの出来る起業支援人材
- 創業チームのボードメンバーとしての経営局面にも支援対応が可能な、**アントレプレナー型支援人材**など

3. 実施内容について

本事業は、下記の構成で実施されます。

- ① 前期集合研修（3日間）
- ② 中期集合研修（1日間）
- ③ SSA ディスカッション合宿（1泊2日）
- ④ 後期集合研修（2日間）
- ⑤ OJT（①の開催後～④迄の間に実施（約3か月程度））

- (1) ①、②、④の 集合研修は、座学やディスカッション、ワークショップ等で構成。
- (2) ③は、1泊2日（予定は確定次第、受講者にご案内します）にかけて実施され、研究開発型ベンチャーの創出現場にて起業家等から講義を受け、受講者間でディスカッション等を予定するもの。
- (3) ⑤の OJT は、起業家候補へのメンタリングやベンチャー企業によるピッチなど、実践的な研修機会を受講して頂きます。

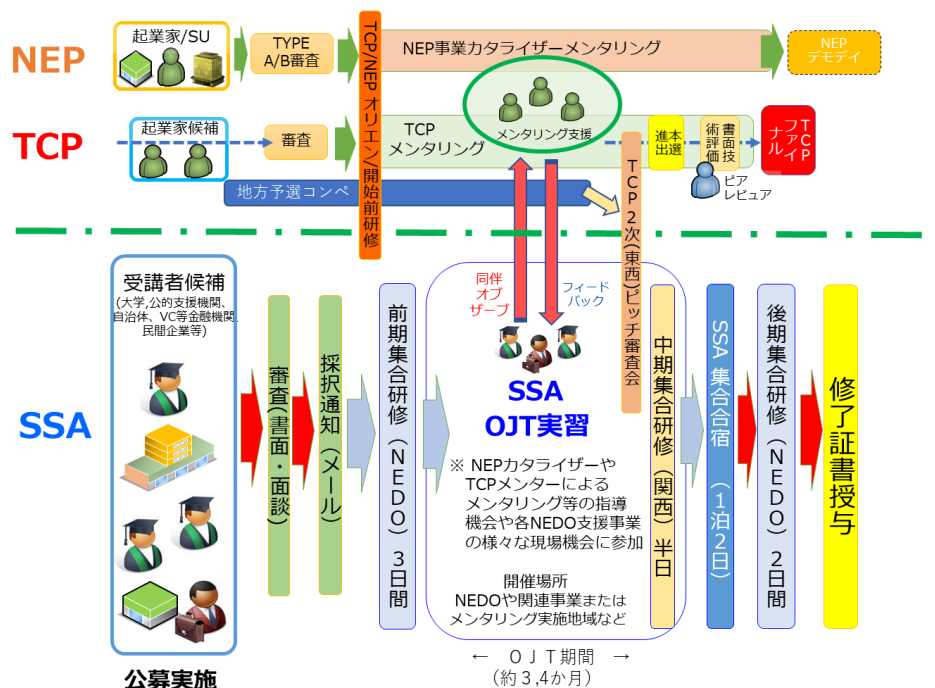
<OJT について>

下記のそれぞれの観点から、実施予定です。

- (1) 研究開発型ベンチャーの立上げ前のビジネスプランのブラッシュアップなど、技術シーズ案件（チーム）のメンタリングにサポーターとして参加して頂き、メンタリング現場経験を積む実践的な機会として頂きます。
- (2) また、実際のスタートアップのピッチやイベントにも数多くご参加をいただくことで、スタートアップの目利き、評価の視点で目を肥やして頂き、また実際の研究開発型ベンチャーの様々な起業家と交流して頂くことで、その考え方にも触れて頂きます。

尚、OJT 実施にあたっては、NEDO SSA 事務局所定のフォーマットによる月報をご提出頂きます。

※ 参考 SSA の全体スキーム図



4. 募集期間

2022年3月11日（金）～ 3月31日（木）※17時まで（必着）

（NEDO SSA 事務局まで、電子メールで応募下さい。：後述「応募について」参照）

5. 受講対象者について

研究開発型ベンチャーの創出支援の現場をリードして行く、またはリードして行くであろう人材、もしくは、今後こうした支援キャリアを目指そうとする若手支援者候補などについて、我が国の先端技術・ディープテック系スタートアップの支援を志す意欲的な人材を想定しています。

<例>

- 全国大学の産学連携・知財本部などの関連教職員・URA、コーディネーター、TLO 役職員、ポスドク等
- イノベーション・モノづくり支援等を担う自治体部局や公的支援機関の担当職員、インキュベーションマネージャー（IM）、コーディネーター
- 民間企業にてオープンイノベーションや CVC、カーブアウト・スピノフベンチャー創出に従事する担当者で、高度専門性・キャリアを高めたい関係部局の担当者
- VC 等で、各地の研究機関や公的機関と連携し、シード段階から積極的に技術の目利きや掘り起こしを行い、研究開発型の専門性やキャリアを構築したいキャピタリスト
- 上記の職能・職種の経験者で、マインドセットから、イノベーション意識や支援的知見やスキルの確認やブラッシュアップ、学び直しなどに積極的に取り組もうとする者、もしくは、上記に準ずる職能の者あるいはベンチャー支援者を志す若手人材など

6. 実施場所、実施形式について

下記のリアル会場での実施を予定しておりますが、**特措法に基づくまん延防止等重点措置の実施を考慮し、各研修の実実施時点で本件の発令中である地方・地域からの受講者**においてはリモート受講を可能とする予定です。また、下記のリアル会場地域で緊急事態宣言が発令した場合はリモート開催のみとします。

・前期集合研修／後期集合研修：

Kawasaki-NEDO Innovation Center (K-NIC)

神奈川県川崎市幸区大宮町 1 3 1 0 ミューザ川崎セントラルタワー 5 F

・中期集合研修、OJT の一部：

会場は調整次第、受講者にご案内致します。

(関西、もしくは中部東海地域を予定)

・SSA ディスカッション合宿：

調整中

・OJT の一部（起業家候補へのメンタリング等）：

各メンタリングの現場や、イベントにより異なります。

※上記の各会場においては、会場の入場時の手指消毒や検温検査、間隔・パーティション等を隔てた座席の着席、居室内の常時マスク着用など、所定の感染対策を実施して開催します。

7. 実施時期について

- (1) 前期集合研修：**2022 年 4 月 20 日（水）～ 22 日（金）（3 日間：各日終日）**

※ 新型コロナウイルスのまん延状況により、リアルとリモートのハイブリッド開催の可能性あり

- (2) OJT 期間（メンタリング、ピッチ・セミナー等の受講）同 5 月～8 月初頃（約 3 ヶ月）

- (3) 中期集合研修：**2022 年 6 月 24 日（金）（@東海会場：終日）**

※ 新型コロナウイルスのまん延状況により、リアルとリモートのハイブリッド開催の可能性あり

- (4) SSA ディスカッション合宿：

2022 年 7 月下旬～8 月上旬頃予定

※ 新型コロナウイルスのまん延状況により、リアルとリモートのハイブリッド開催の可能性あり

- (5) 後期集合研修：**2022 年 8 月 25 日（木）、26 日（金）（2 日間：各日終日）**

※ 新型コロナウイルスのまん延状況により、リアルとリモートのハイブリッド開催の可能性あり

※ 要注意・確認：

・書類選考の結果、当プログラムの受講が決定された方は、上記に予定される集合研修（前期・中期・後期）、OJT、SSA ディスカッション合宿への参加が必須になります。応募される方は、予め、上記の予定をご留意のうえ、受講の可否や応募のご検討を下さい。

Ⅲ. 応募条件等について

1. 要件

SSA の受講者は、次に示す(1)～(5)に示された条件の全てを満たす個人とします。

- (1) 公募採択までに、日本国内に居住しているもしくは居住する予定である者。また、外国籍の者については、日本における滞在及び就労要件を満たしていること。
- (2) 我が国のベンチャーエコシステムを構成するソフト支援人材インフラの担い手として、研究開発型ベンチャーの創出支援を志し、産業活性化に寄与すると認められる応募であること。
- (3) 当該プログラム受講に際し知り得た企業及び営業上、並びに他の個人情報について秘密を順守出来る者、または、これを当人の確認・許可なく関係者外に周知・流布等しない者であること。
(この点について、受講決定者には、前期研修開始当日、同意書を署名頂きます。)
- (4) NEDO 及び OJT 実施先において、公序良俗に反しないよう、安全上及び衛生管理上の措置に従い、順守出来る者であること。
- (5) 以下の排除対象者のいずれにも該当しない者であること。

- ① 所属法人等（個人、法人又は団体をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）であるとき又は法人等の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団員（同法第 2 条第 6 号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき。
- ② 暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれから投資を受ける、又はこれと取引関係にあるなど、直接的あるいは積極的に暴力団又は暴力団員の維持、運営に協力又は関与している者。
- ③ 自己若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき。
- ④ 暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。
- ⑤ 暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき。
- ⑥ その他東京都暴力団排除条例（平成 23 年東京都条例第 54 号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている者。
- ⑦ 上述の排除対象者であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有している者。

2. 応募にあたっての重要事項

(1) SSA プログラムの参加費用について

当 SSA プログラムへの参加・受講は**無料**です。

但し、各集合研修や OJT 参加のための交通費実費は、受講者各自のご負担となりますので予めご了承下さい。

(2) 活動資格の喪失

当 SSA プログラムは、受講が決定した後も本事業による活動期間中、以下に規定する状況が発生した場合、本事業の参加資格を失うものとします。

- ① SSA プログラム期間中に、上記の応募条件等について全部又は一部の条件を満たさない状況となった場合。

- ② 所定内容への不参加や欠席の累積により、修了の見込みが達せられないと事務局が判断した場合。
- ③ 当該プログラムの実施・受講について、他受講者の円滑な参加の妨げとなる迷惑行為等が判明した場合。
- ④ その他、NEDO SSA 事務局が受講継続について適切でないと判断した場合。

(3) その他の留意事項

地震・台風等の自然・交通災害、講師の急病等、他やむを得ない事情が発生した場合等、事務局が必要と判断した場合、当プログラムの一部もしくは全部について、遅延、中断、延期をさせて頂く場合があります。

(4) 秘密保持義務について

受講に際し知り得る、公にされない講義事例や OJT 対象者等に関する事項について、受講開始時に、所定の秘密保持同意書にご署名・提出を頂きます。これをご提出頂けない場合は、その後の受講をご遠慮させて頂く場合があります。

IV. 応募について

1. 提出期限及び提出先

本募集要領に従い、以下の提出期限までに、応募申請書（Excel、または PDF 化したファイル）を電子メール送信によりご提出ください。郵送、直接持参・FAX による提出は受け付けません。

(1) 提出期限： **2022 年 3 月 31 日（木）17 時まで（必着）**

(2) 提出先メールアドレス：**tech-ssa@nedo.go.jp**

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
イノベーション推進部 スタートアップグループ SSA 事務局あて

本 SSA プログラムへの応募申請は、電子メールによる申請のみとなります。

また、応募に掛かる必要書面の添付忘れや送信漏れ、誤送信、応募者自身の個人情報の取り扱いなどについては、応募者自身の責任の範囲になりますので、ご注意ください。

2. 応募申請書の作成について

- (1) 所定の申請書（Excel ファイル）に記載・作成下さい。（PDF 等に変換・送付可）
- (2) 志望理由については、記載欄に収まる範囲で作成下さい。（記載形式は自由）
- (3) 申請書は日本語で作成して下さい。
- (4) 写真データは、応募時から 3 か月以内のもの（jpg、gif、png、等）について、**画像を申請書に貼り付けて**お送り下さい。
- (5) 内容記載に係る照会時に、連絡の取れる連絡先（TEL、E-Mail）を必ずご記載下さい。
- (6) 申請書の受理及び申請書に不備があった場合：
 - ・ 応募資格を有しない者の申請書、又は不備がある申請書は受理できません。
 - ・ 応募書類に不備があり、提出期限までに修正できない場合は、応募無効とさせて頂く場合があります。

3. 秘密の保持

応募に際し、申請頂いた個人情報、事務局業務として必要な範囲で NEDO の事務委託先に共有されます。このとき、SSA 応募や通知、受講等の運営など、必要な範囲にのみ利用され厳重に管理されます。

またアンケートや特定の個人を識別しない状態に加工した統計資料等に利用することがあります。応募の個人情報は上記目的以外で利用することはありません。（法令等により提供を求められた場合を除く）

4. 受講者の選定について

（1）選定の観点について

応募者の申請内容を総合的に判断・審査を行い、受講者を決定します。特に、下記の観点から**書面審査（もしくは面談審査）**を行い、受講の可否を決定します。（この場合の選考・審査に関する問い合わせには一切応じかねますのでご了承ください）

① 業務経験等の評価

応募者のこれまでの経歴や業務経験、修学してきた専門研究分野などを勘案して審査します。
（※ベンチャー支援経験の有・無は参考にしますが、そのみを以て優遇判断することはありません。）

② 志望動機・理由

イノベーション創出の担い手でもある、研究開発型ベンチャー・スタートアップへの起業・事業化支援にかける意欲、情熱、リーダーシップ、高度専門支援者としてのキャリア構築や SU エコシステムへの**貢献意欲・視点**など

③ その他、受講者環境の確認

スケジュール・予定等の確保や参加可能性の度合いなど。また応募申請書面中に記載のある、「確認項目」についての承諾・確認記載の有無など。

（2）書類審査、面談審査について

受講者の選考は、今回は書類審査を中心に実施致します。応募期間〆切後、速やかに書面審査を行います。不明点の解消が必要と思われる方についてはリモート面談を実施する場合があります。

（3）受講者の決定に関する通知について

① 応募結果の通知について

4 月初週に、各応募者宛に E-Mail にて、事務局より申請者本人のアドレスへ個別に結果を通知致します。（WEB 等での公表は行いません）

② 受講の採否に関する事由については、お問い合わせ頂いても**原則、非公表**としますのでご了承下さい。

③ また、**受講が決定した方は、前期研修（22 年 4 月 20 日、21 日、22 日）に開始される研修の受講まで間もないことにご留意を頂き、今後事務局からの連絡にはご注意のうえ、受講準備を進めて頂きますようお願いを申し上げます**（その旨、ご協力をお願い申し上げます）。

5. 受講定員：30 名程度（予定）

※ 必ず定員を満たす受講者数にするとは限りません。選考の上、定員を下回る受講者数とする場合もあります。

※ 応募者数が定員に満たない場合や、受講者選定上の要件不備や内容妥当性を欠く場合など等による欠員が発生した場合は、この限りでは御座いません。

V. 修了について

下記の 3 つの要件を全て満たした受講者について、SSA 事務局が個別に審査のうえ修了者を決定し、NEDO が修了証を発行・認定いたします。

- ・ 前期集合研修：2022 年 4 月 20 日（水）～22 日（金） 各日/終日
 - ・ 中期集合研修：2022 年 6 月 24 日（金） 終日
 - ・ 後期集合研修：2022 年 8 月 25 日（木）～26 日（金） 各日/終日
- 以上の座学講義について、それぞれ 9 割以上を受講すること
- ・ SSA ディスカッション合宿（2022 年 7 月下旬～8 月末頃：1 泊 2 日）にご参加頂くこと
 - ・ OJT 期間では、各回メンタリング実施および毎月の所定のレポート（月報）を提出した者
（※リモート受講の場合はそれを含む）

※SSA では原則、ほぼすべての講義・プログラムにご参加頂くことになります。
これらの参加や受講状況を総合的に勘案し、修了証の発行を判断します。

尚、上記の SSA 修了者は、その後、高度専門支援人材（NEDO SSA フェロー）としてご登録頂くことで、NEDO ページ内（https://www.nedo.go.jp/activities/ZZJP2_100114.html）で掲載・公表されます。

VI. スケジュールについて（前掲、ご確認）

＜応募申請・選考・面談＞

- ・ **2022 年 3 月 11 日（水）～31 日（木）17 時迄（必着）**：応募受付期間（電子メールのみ）
～（4 月 4 日～7 日（予定））：最終結果連絡（電子メール）

＜受講決定者の場合＞

- ・ **2022 年 4 月 20 日（水）～4 月 22 日（金）（3 日間） 前期集合研修 @NEDO 川崎 K-NIC**
5 月～7 月：OJT オリエンテーション（現地会場 or リモートなど）
- “ **6 月 24 日（金）：中期集合研修**（@東海会場を予定）
- “ **7 月下旬～8 月初頃：SSA ディスカッション合宿（調整中）**
- “ **8 月 25 日（木）～26 日（金）（2 日間） 後期集合研修 @NEDO 川崎 K-NIC**

※以上は、新型コロナまん延状況により、リモート受講の場合がありますので、その場合は事務局の案内に従って受講をお願い致します。

※応募者の方は、受講決定した場合、上記の日程参加を前提に、ご応募を検討下さい。

Ⅶ. プログラムについて (※注)

プログラムについては、主に、座学やワークショップ等の集合研修（前期・中期・後期）群と、実践的機会である OJT 編、ディスカッション合宿とに大分して構成されます。

本プログラムが育成を目指す支援人材像のとおり、イノベーション創出の担い手でもある、研究開発型ベンチャーの高度専門支援人材として活躍するのに必要なイノベーションに関する基礎的知識や、スタートアップの経営・支援に関する方法論、伴走支援スキルやマインド、そして我が国ベンチャーエコシステムに関する諸知識などについての講義群で構成されます。他方、OJT は、実際に研究開発型ベンチャー・スタートアップの起業家と対面し、メンタリングの現場に同伴・支援を頂き、またピッチ登壇現場への参加などを通じて、実践的支援や伴走スキルのマインドを体得頂きます。

<参考> 過去例：講義内容について(OJT を除く)

講義コマ名	講義属性	領域	開催時期
我が国のベンチャーエコシステムの様相と課題	コア講義	マインドセット	前期
アントレプレナーシップ支援論	コア講義	マインドセット	前期
研究開発型ベンチャー目利き論	コア講義	マインドセット	前期
イノベーション支援人材のキャリア開発	コア講義	マインドセット	前期
エクスポネンシャル・テクノロジー思考論	コア講義	行動・思考原理(Innovation/OI)	前期
イノベーション・プロセス概論	コア講義	行動・思考原理(Innovation/OI)	前期
イノベーション・デザイン思考（総論）	コア講義	行動・思考原理(Innovation/OI)	前期
ベンチャーエコシステムデザイン戦略	コア講義	行動・思考原理(Innovation/OI)	前期
ベンチャー産業政策概論	コア講義	エコシステム	前期
地域ベンチャーエコシステム論	コア講義	エコシステム	前期
大学発ベンチャー(学)の創出取り組みに向けた諸課題と展望	コア講義	エコシステム	前期
インキュベーターマネジメント論	コア講義	エコシステム	後期
コーポレートベンチャリング論	コア講義	エコシステム	前期
海外ベンチャーエコシステム（概論）	コア講義	エコシステム	前期
テクノロジースタートアップの知財戦略・マネジメント	コア講義	知識方法・スキル	前期
テクノロジースタートアップの資金調達（概論）	コア講義	知識方法・スキル	前期
技術社会実装論	コア講義	知識方法・スキル	前期
研究開発型ベンチャーのメンタリング	コア講義	知識方法・スキル	前期
科学技術ビジネスプロデュース論	コア講義	知識方法・スキル	中期
スタートアップサイエンス①	コア講義	知識方法・スキル	中期
スタートアップサイエンス②	コア講義	知識方法・スキル	中期
オープンイノベーション戦略概論①（推進方法と活用、戦略）	コア講義	知識方法・スキル	中期
SSA特講（アントレプレナーシップファイナンス概論）	コア講義	知識方法・スキル	前期
ビジネスプレゼン・ピッチ特講	コア講義	実務・マネジメント	後期
スタートアップ・アクセラレーション	コア講義	実務・マネジメント	後期
国研究ベンチャー創出事例	事例講義	実務・マネジメント	前期
公的支援活用論	事例講義	実務・マネジメント	前期
研究開発型ベンチャーの E x i t と伴走支援の視点	事例講義	実務・マネジメント	後期
日本のベンチャーエコシステムとスタートアップ支援を考える（フリーディスカッション）※調整中	事例講義	実務・マネジメント	後期
地域・自治体(公)の起業エコシステム構築	事例講義	実務・マネジメント	後期
大企業(産)のイノベーション創出の取り組み	事例講義	実務・マネジメント	後期
テクノロジースタートアップの外部資金公募（概論/各論）	事例講義	実務・マネジメント	後期
ケーススタディ講義	事例講義	実務・マネジメント	後期

※注）2022 年度の講義コマ・内容については調整中です。講師予定等により一部変更等の可能性があります。
詳細については、事務局からの案内をご確認下さい。

Ⅷ. よくあるご質問について

Q1. 新型コロナ禍での受講が不安です。対策などは何かありますか。

- A. (検温や消毒、3密回避、常時マスク着用等の感染対策実施による) 実施会場への参加となります。受講者の皆様には感染防止のご協力をお願い申し上げます。

また、特措法に基づくまん延防止等重点措置が発令中の地方・地域からの受講である場合は、リモートでの受講を可能とする予定です。また、実施会場で緊急事態宣言が発令されている場合のプログラム開催はリモート参加のみとする予定です。

Q2. 遠隔地からの参加なのですが、リモートでの受講は可能ですか？その場合、全プログラムのリモート受講による修了は可能ですか。

- A. 原則的に、実施会場へのご来場を前提に実施予定としております。しかしながら、上記 Q1 の状況のような場合は、一部講義のリモート受講を可能とする予定です。従って、全プログラムのリモート受講による修了は想定しておりません。

Q3. OJT について教えてください。前期集合研修以降の OJT 期間について、その拘束に割く時間や負担はどの位でしょうか？負担が大きいと、修了出来るか不安です。

- A. OJT の負担は多くはありませんのでご安心下さい。

OJT は受講者毎に参加して頂く所定のメンタリングと、スタートアップに関するピッチやセミナーといった内容で構成予定ですが、前者は1ヶ月あたり1回(割り当て案件により2回の可能性あり)ほど実施され、1～2時間程度のご参加を頂きます。後者については、対象とするピッチやイベントにより幅がありますが、1回あたり2時間～3時間の参加を見込んでおります。

これら、前者と後者の参加に関する OJT 内容について、所定のフォーマットによる月報を毎月作成のうえ事務局にご提出を頂きますが、総じて、これらに従事いただく時間は、1ヶ月当たり10時間を越えない程度であり、いわゆる OJT の負担は少ないと思料されます。

(自主的に研鑽を頂く分にはこの限りではありません)

また、参加すべき所定の講義やメンタリングなどの参加・調整が適えば、負担という意味での修了は難しくなく、これまで過去、殆どの受講者が修了証を獲得しています。